
はらぺこオオカミと、くるくるヒツジ

かりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はらぺこオオカミと、ぐるぐるヒツジ

【著者名】

かりん

N4686V

【あらすじ】

はらぺこオオカミは悩んでいました。とっても、とっても、悩んでいました。え? どうしてかつて? だって、ぐるぐるヒツジは、とっても、きれいでしたから。

短編小説サイト【セカイのカタチ】／童話館【ぐるぐるの森】からの転載です。

はらぺこオオカミと、くぬぐるヒシジ

はらぺこオオカミは、つ～む、と悩みます。
草原に、おいしそうな、じゅわじゅがいるのです。
白くて柔らかそうな、くぬぐる巻き毛が、お口様にふわふわと輝
いています。

縁の中にいる、くるくるヒシジは、とても、きれこに見えました。
はらぺこオオカミが着てこむ毛皮は、茶色くて「ワ」ワかたいの
で、
白くて柔らかそうな、くぬぐる巻き毛が、秘密の宝ものよつこ
まぶしげです。

はらぺこオオカミは、「つ～む……」と悩みます。
だつて、とつても、はらぺこです。
昨日から、なんにも食べていないので。
とりあえず、隠れていた林の中を、ひとりで、ひねりひねりしてみま
した。
かけつけ方法は、みつかりません。

はらぺこオオカミは、「つ～む……」と悩みます。
だつて、くるくるヒシジを食べてしようと、あのきれいな白い毛

が赤く汚れてしまいます。

せつかく、自分だけの宝物を見つけたのに、それは、とてもイヤなのです。

とりあえず、茶色い毛皮の腕を組んで、首をひねって考えてみました。

した。

かいけつ方法は、みつかりません。

はらぺこオオカミは、うううう～むつ～ と悩みます。
はらぺこのおなかがクークーないで、早く食べよ～、と誘います。
とりあえず、ないてるおなかを両方の手で押さえてしましました。
かいけつ方法は、みつかりません。

ぐるぐるヒツジは、お食事中です。

白く美しい、ぐるぐる巻き毛を、お口様にぽかぽか照りられて、
それはそれは、おいしそうに、縁の草を食べています。

ぐるぐるヒツジは、しあわせそうです。

林の中で、はらぺこオオカミが悩んでぐる～となど、ぐるぐるヒツジはぜんぜん知らないのです。
だって、はらぺこオオカミは、足音や匂いを消してしまつのが、
とっても上手でしたから。

はらぺこオオカミは、うううう～むつ～ と悩みます。

とりあえず、シラカバの樹を、がしがし、牙でかじつてみました。
けれど、おなかは、なりやみそうにもありません。
そもそも、木の皮は、あんまり好きではありません。

はらぺこオオカミは決心しました。

うんっ！ と大きく頷いて、シラカバの林を出でいきます。
きりつ、と顔を前に向け、

両手を振つて、ずんずんと、
ぐるぐるヒツジに向かいます。
でも、お顔がちょっと怖いので、驚かせなことにな
けません。

ぐるぐるヒツジは顔を上げ、「なにか、じょりー。」とさきまし
た。
はらぺこオオカミは、「口クリ、とつぱを飲みこみました。
そして、ぐるぐるヒツジに言つたのでした。

「お友だちから、始めませんか？」

～ はらぺこオオカミ～、ぐるぐるヒツジ ～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4686v/>

はらぺこオオカミと、くるくるヒツジ

2011年10月9日14時18分発行